

令和7年度

佐賀県小・中学校学習状況調査
及び 全国学力・学習状況調査

— 調査結果 と 指導改善のポイント —

小学校算数科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
- 5 指導改善のポイント
- 6 同一児童の経年比較
- 7 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の**学習状況を把握・分析**し、児童生徒への**教育指導の充実**や**学習状況の改善**等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と**一体的に分析**することで、各学校における**学力向上に向けた検証改善サイクルの確立**につなげています。

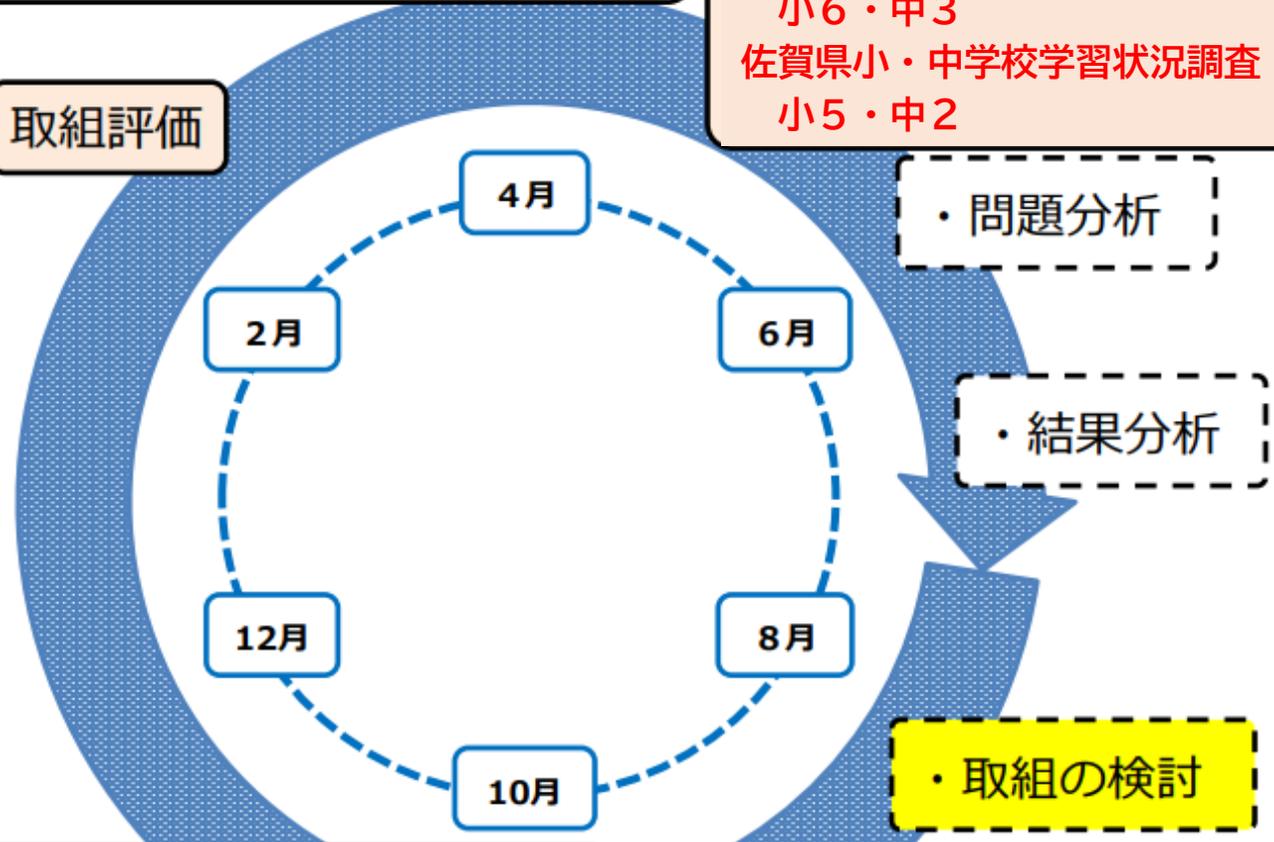
令和7年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和7年4月17日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

検証改善サイクルを
確立・機能させることにより、児童生徒の学力向上を図りましょう。

・取組の検討

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

小5算数

年度	県平均正答率	目標値
R7	62.2 %	65.9 %
R6	61.1 %	63.3 %

目標値との差
(県平均正答率 - 目標値)

-3.7

-2.2

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R7の県平均正答率は、目標値を3.7ポイント下回った。
また、R6と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

小5算数

知識・技能

年度	県平均正答率	目標値
R7	64.7 %	68.5 %
R6	67.2 %	69.2 %

目標値との差
(県平均正答率 - 目標値)

-3.8

-2.0

R7の県平均正答率は、目標値を3.8ポイント下回った。
また、R6と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

小5算数

思考・判断・表現

年度	県平均正答率	目標値
R7	55.9 %	59.4 %
R6	42.7 %	45.6 %

目標値との差
(県平均正答率 - 目標値)

-3.5

-2.9

R7の県平均正答率は、目標値を3.5ポイント下回った。
また、R6と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

小5算数

領域	年度	県平均正答率	目標値
A 数と計算	R 7	65.4 %	68.6 %
	R 6	66.1 %	67.9 %
B 図形	R 7	56.7 %	62.2 %
	R 6	62.1 %	63.1 %
C 変化と関係	R 7	60.0 %	63.3 %
	R 6	54.1 %	59.2 %
D データの活用	R 7	62.7 %	61.7 %
	R 6	50.5 %	53.8 %

目標値との差
(県平均正答率 - 目標値)

-3.2

-1.8

-5.5

-1.0

-3.3

-5.1

+1.0

-3.3

R7の県平均正答率は、「データの活用」で目標値を上回った。
また、R6と比べると、「変化と関係」で改善が見られた。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

小6算数

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	54 %	58.0 %
R6	62 %	63.4 %

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。

R7の県平均正答率は、R6に引き続き、全国平均正答率を下回った。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

小6算数

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	61.3 %	65.5 %
R6	71.8 %	72.8 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-4.2

-1.0

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を4.2ポイント下回った。
また、R6と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

小6算数

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	43.9 %	48.3 %
R6	48.6 %	51.4 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-4.4

-2.8

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を4.4ポイント下回った。
また、R6と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》	領域	年度	県平均正答率	全国平均正答率	全国平均正答率との差 (県平均正答率－全国平均正答率)
小6算数	A 数と計算	R 7	57.9 %	62.3 %	-4.4
		R 6	64.4 %	66.0 %	-1.6
B 図形	B 図形	R 7	52.9 %	56.2 %	-3.3
		R 6	64.8 %	66.3 %	-1.5
C 測定	C 測定	R 7	51.4 %	54.8 %	-3.4
		R 6	—	—	—
C 変化と関係	C 変化と関係	R 7	52.2 %	57.5 %	-5.3
		R 6	48.9 %	51.7 %	-2.8
D データの活用	D データの活用	R 7	57.7 %	62.6 %	-4.9
		R 6	59.7 %	61.8 %	-2.1

R7の県平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率を下回った。

第5学年では、令和6年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 領域別の県平均正答率 「変化と関係」
「データの活用」

第6学年では、令和6年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 領域（設問）別の県平均正答率 「図形」作図に関わる設問

3 成果が見られた設問

- ◇概数の表し方を理解している。(小5)
- ◇帯分数 + 真分数 = 帯分数 (繰り上がりあり) の同分母分数の計算ができる。
(小5)
- ◇異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる。(小6)
- ◇ひし形の作図ができる。(小5)
- ◇平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる。(小6)

4 課題が見られた設問

- ◆計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる。(小5)
- ◆簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる。
(小6)
- ◆数量の関係を、割合を使って説明することができる。(小5)
- ◆「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。(小6)

5 指導改善のポイント

計算のきまりを使って、自分の考えを総合式※¹に表したり、総合式からその式の意味を読み取ったりすることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 文章問題に合った総合式を書く学習活動を設定する。その際、分解式※²で書いた児童に対して、1つの式で表すよう働き掛けを行ったり、分解式と総合式を比較する学習活動を取り入れたりすることで、総合式で表す便利さやよさを実感できるようにする。
- 計算のきまりについての理解を深めるために、問題解決の過程において、計算のきまりを活用する際には、活用した理由を言葉で説明する学習活動を設定する。

※1 総合式…複数の計算を一つの式にまとめたもの

※2 分解式…複数の計算を段階ごとに分けて一つずつ表したものの

簡単な二次元の表から、結論の根拠となる数値を読み取ることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 調べたい情報を得るために、表の見方について児童とやりとりを行い、データのどの部分を見ればよいかを共有する場面を設定する。
- データの特徴や傾向から導いた結論について、表の中にある根拠となる数に着目できるようにするために、表から捉えた特徴や傾向、考えたことなどを、表と対応させながら伝え合う学習活動を設定する。

数量の関係を、割合や百分率を使って説明することができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 比べる際に必要な基準量、比較量に着目しやすくするために、問題としている場面を絵や図で表すようにする。
- 日常生活で、「10%増量」「30%引」などの百分率が用いられている場面を取り上げ、「10%増量」「30%引」などの意味を解釈できるようにし、倍を使って捉え直した表現ができるようにする。

6 同一児童の経年比較

〈 県調査結果と全国調査結果との比較 〉

	小学校			中学校		
学年	第1学年～ 第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
県調査 (4月実施)	第4学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 算数		第1学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 数学 英語	
全国調査 (4月実施)			国語 算数 (理科)			国語 数学 (理科・英語)

() 内教科…3年に1回実施

各学校において、経年比較における分析も行ってみましょう。

6 同一児童の経年比較

〈 R 7 全国調査結果と R 6 県調査結果との比較 〉

領域	R 7 全国調査 対全国比※1	R 6 県調査 対全国比※2	R 7 - R 6
A 数と計算	0.93	0.96	-0.03
B 図形	0.94	0.95	-0.01
C 変化と関係	0.91	0.92	-0.01
D データの活用	0.92	0.97	-0.05

※1 全国調査対全国比 … 県平均正答率÷全国平均正答率

※2 県調査対全国比 … 県平均正答率÷調査に参加している児童（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、全ての領域で指導改善が必要である。

7 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

- ◆計算のきまりを使って、自分の考えを総合式に表したり、総合式から考えを読み取ったりすることができるようにする。
- ◆簡単な二次元の表から、結論の根拠となる数値を読み取ることができるようにする。
- ◆数量の関係を、割合や百分率を使って説明することができるようにする。



佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

各種研修

受講のための情報

受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ

授業に役立つ実践研究

学習評価の進め方

SAGAせ〜る指導案

学習状況調査

授業に役立つ実践研究



プロジェクト研究			
校種	教科・領域	研究主題：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進	
小学校	各教科	【小学校国語科】	授業改善に役立つコンテンツ new
		【小学校算数科】	授業改善に役立つコンテンツ new
中学校	各教科	【中学校国語科】	授業改善に役立つコンテンツ new
		【中学校数学科】	授業改善に役立つコンテンツ new
		【中学校英語科】	授業改善に役立つコンテンツ new
個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）			
小学校	各教科・領域等	指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 new	
中学校		指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 new	
		社会科、算数科、図画工作科、外国語科、道徳科、学校保健	
		理科、音楽科、美術科、技術・家庭科（家庭分野）、道徳科	

・小学校算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて



・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ、指導と評価の一体化を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

佐賀県教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

- 各種研修
- 受講のための情報
- 受講者へのお願い
- オンデマンド受講者専用ページ
- 駐車場の利用について
- 申込等各種手続
- 授業に役立つコンテンツ
- 授業に役立つ実践研究
- 学習評価の進め方
- SAGAせ〜る指導案
- 学習状況調査

「さがんば」 (佐賀県学習問題)

これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査を基に作成されたC B T問題です。児童生徒が、学習eポータルにサインインして、MEXCBT (メクビット) を使用して学習することができます。

I 教師用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

II 児童生徒用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

III 問題一覧 ※令和6年3月15日更新

小学校 国語 小学校 社会 小学校 算数 小学校 理科

中学校 国語 中学校 社会 中学校 算数 中学校 理科 中学校 英語

「さがんば」 (佐賀県学習問題) 児童生徒用マニュアル

1. 「さがんば」 (佐賀県学習問題) 児童生徒用マニュアル

2. 学習eポータルにサインインしよう

1. 「さがんば」 (佐賀県学習問題) って何ですか?

「さがんば」 (佐賀県学習問題) とは、授業や家庭で、学習eポータルを使い、オンライン上で学習することができる佐賀県が作成した問題です。いろいろな問題に取り組んで、学習内容の理解を深めていきましょう。また、主体的に取り組んで、「学び力」もつけていきましょう。

2. 学習eポータルにサインインしよう

学習eポータルにアクセスして、IDとパスワードを入力してください。

「サインイン」をクリックして、ログインしてください。

MEXCBTテストをクリックしてください。

※「サインインしたあとの画面」と「MEXCBTテスト」の画面は、学習eポータルによって異なります。



MEXCBT

「さがんば」 (佐賀県学習問題) 算数 小5 割合 - Section

みさきさんは、図書委員会で活動しています。金曜日に行われた委員会活動で、最近の本の貸出状況を調査してまとめています。

みさきさんは、資料1と資料2を見ながら、あのように話をしています。

みさきさんが言っていることは「正しい」ですが「正しくない」ですか。「みさきさんが言っていること」に続けて、「正しい」か「正しくない」か答えましょう。また、そのわけを、6年生の貸出冊数に着目しながら、言葉や数を使って答えましょう。

(答えは次の欄に入力しないで。また、この問題は、「テスト結果」では「x」が表示されます。正解かどうかは自分で確かめましょう。)

みさきさんが言っていることは

資料1 先週の学年別の貸出冊数の割合と貸出冊数の合計

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	貸出冊数の合計
割合	19%	18%	16%	18%	17%	12%	850冊

資料2 今週の学年別の貸出冊数の割合と貸出冊数の合計

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	貸出冊数の合計
割合	20%	19%	16%	18%	17%	10%	1400冊

資料1と資料2を見ると、今週は先週よりも、6年生だけ、貸出冊数の割合が小さくなっているね。だから、6年生の今週の貸出冊数は、先週の貸出冊数に比べて減っていると思うよ。

これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査問題を基に作成されたC B T問題です。学習eポータルにサインインして、MEXCBT (メクビット) を使い、オンライン上で学習することができます。